



体を守ることは心も守ること

—性は命につながる—

子どもを持つ？持たない？
いつ産む？



望まない妊娠

女性のライフコースには様々な選択肢があります。女性の人権のひとつとされる「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は、産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由を持つことを意味するなど、性と生殖に関する総合的な権利のことです。パートナーとよく話しあって、自分の人生設計を描きましょう。決めるのは自分たち！

性感染症

性感染症は性的接触を介して誰もが感染する可能性があります。感染しても無症状であることが多く、自分の知らない間に他の人に感染させてしまうことがあります。今年の梅毒感染者数は 44 年ぶりに 5 千人台を記録し昨年を上回る勢いで増えています。予防は自分自身を守ります。

生涯にわたる女性の健康支援

がん検診に行こう

女性の乳がん・子宮頸がん検診を含めた 5 つのがん検診の受診率は 3~4 割台（厚生労働省調査）で、諸外国に比べると極めて低いのが実情です。また、AYA 世代（15~39 歳）の 20~29 歳では卵巣がん、30~39 歳では乳がんの罹患率が高いことがわかりました（平成 30 年国立がん研究センター公表）。早期発見早期治療できるチャンスを逃さずに！自分の体をケアしましょう。

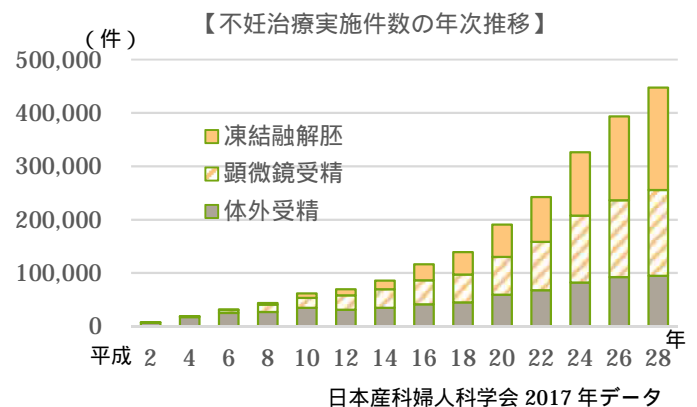
性感染症ナビ

東京都は性感染症の症状や感染経路などをまとめた情報サイト「東京都性感染症ナビ」を開設。性感染症の正しい知識と適切な行動は、あなたのためだけでなく、大切な人のためでもあります。

10 代での妊娠出産はその後の人生に大きな影響をおよぼします。高校生で妊娠した学生の半数以上が退学を余儀なくされる現状は、今後の課題でもあります。望まない妊娠・出産は児童虐待につながる恐れも。性が命につながることをきちんと学ぶことは自分を守ることです。10 代の人工妊娠中絶数は減少傾向にあるものの平成 28 年度は約 1 万 5 千件でした。

不妊...

不妊に悩むカップルは 10 組に 1 組の割合といわれています。不妊の原因は様々で、男性側女性側半々です。2 人でよく話し合うことが大事！平成 28 年は体外受精児 5 万 4,110 人が誕生。17 人に 1 人が体外受精によって生まれています。



練馬区は、医療保険が適用されない特定不妊治療費の一部を助成しています。東京都特定不妊治療費助成事業の承認決定をすでに受けている方が対象です。



<女子力>革命

菅野稔人編
東京書籍 2018

ここで言われているのは「女性らしい態度や身だしなみ」の女子力ではない。平均寿命が男性よりも長くなり、結婚が当たり前でなくなり、高齢になっても働き続けなければならない時代にはどのような力が必要なのか。女子力に「革命」が求められている。



マリコ、うまくいくよ

益田ミリ著
新潮社 2018

頑張れば、むくわれるのかな、働いてなんなんだろう。社会人2年目、12年目、20年目の同じ職場のマリコたちは考える。天気の話で間をもたせる日がくるなんて、私にも自分の意見あるのに、優しいセンパイって思われたいけれど、など...その気持ちよくわかるよ。じんわりくるお仕事漫画。

新着図書紹介



思春期の女の子が親に求めていること

中野日出美著
大和出版 2018

思春期の娘のことで悩んでいるあなたへ。親が自分自身を振り返ることも大切。本書で著者が伝えたいことは2つ。ひとつは、誰よりも愛していることを娘さんにしっかり伝えること。もうひとつは、娘さんのためにも親であるあなた自身が幸せになること。



働く女性 ほんとの格差

石塚由紀夫著
日本経済新聞出版社 2018

「職場の女性活躍推進を実感できている」のは2割弱(日経新聞平成29年調査)、「実感なし」が約7割に上る。国や企業が様々な施策を打ってきたにもかかわらず「輝けていない女性」に本書では焦点を当てる。個人の事例や本音をできるだけ盛り込み、女性活躍推進のための実行可能な処方箋を提示。



家族のためのユマニチュード

イヴ・ジネスト〔ほか〕著
誠文堂新光社 2018

「ユマニチュード」とは、フランスで考案された認知症ケアの技法。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱で優しさを伝えることで、よりよい介護が実践できる。大切なのは「相手と良い関係を結ぶ」「その人が持っている力を奪わない」こと。

テーマで読む1冊

ハッピーライフのために女性が知っておきたい30のこと

吉村泰典編著

女性の健康維持向上には、女性医学の実践が極めて重要となっている。女性医学は、月経、妊娠、出産、閉経など女性特有の生理現象と、女性が発症する病気との関わりを長期的な視点で捉え、予防する医学である。様々な症状から女性を解放するために、28人の名医が執筆。女性のみならず、男性にも女性特有のからだの仕組みや病気を理解してほしい。(毎日新聞出版 2018)





時代を拓いた女たち

高村 智恵子

1886年(明治19年)~1938年(昭和13年)

『世の中の習慣なんて、どうせ人間のこさえたものでしょう』

高村(旧姓長沼)智恵子は、平塚らいてうの創刊した「青鞆」の表紙絵を描いたことで知られる、明治の「新しい女」のひとりだった。夫である高村光太郎(詩人・彫刻家)が妻を偲んだ詩集「智恵子抄」は、智恵子の死から3年後の昭和16年に出版されたが、いまもなお多くの人々を魅了している。

智恵子は明治19年5月、福島県安達郡油井村(現・二本松市)に2男6女の長女として生まれた。父今朝吉は婿養子であり、母センは、祖母が若い頃奉公先の主人との間に出来た子であったため、智恵子は祖父の次助とは血のつながりはないという複雑な家庭だった。長沼家は酒造業を営み、使用人も多く、かなりの資産家で、智恵子は何不自由なく育ち、器量もよく成績も優秀で、センの誇りであった。勝気さとやさしさの同居する子であったという。明治36年、町立福島高等女学校を首席で卒業した智恵子は、創設間もない日本女子大学家政学科に入学。女に学問は無用という時代に、智恵子はセンの期待を背に受け上京する。開校当時の日本女子大学の生徒は、年齢経歴も様々で18歳から34、5歳まで幅があり、既婚者、未亡人、元教員もいるという状態であった。同じ頃、平塚らいてうも家政学科に入学している。2人はよくテニスコートで対戦した。らいてうは、智恵子のことを「コートの上でも、しじゅう下を向きながら駆けまわるような人でしたが、サーブの球の強かったこと」「一見ゆるやかな内気の中にそうした鋭い強さをひめている人でした」と書き残している。こののち、同じように芸術家の夫と結婚しながら、らいてうは女性解放運動のリーダーとして名を成し、智恵子は愛に生きた「詩人の妻」として詩

集の中に生きることになる。

明治40年、大学を卒業した智恵子は、両親の反対を押し切り、太平洋絵画研究所に通い美術修行を始める。明治44年、「青鞆」創刊。表紙絵を描く。智恵子は、創刊号の執筆者のひとりであった小説家の田村俊子と知り合い、親交を深める。人生の大半で常に内面に向かってきた智恵子が外部に向って開かれていたわずかの期間と言われる。女子大の先輩だった柳八重の紹介で高村光太郎と知り合い、恋に落ちるのもこの頃である。2人の結婚は当初反対されていたが、大正3年12月、上野精養軒で結婚式を挙げた。しかし、智恵子が実際に高村家に法的に入籍したのは昭和8年8月である。19年もの間、智恵子は内縁の妻であった。らいてうは、結婚後の智恵子が「私からも、いえ、世の中というものから、きれいに離れてゆきました。」と言う。

デッサン力に優れ、色彩に強いこだわりを持っていた智恵子は、結婚後も油絵を描いていたが「女性である彼女の方が家庭内の雑事を処理せねばならず」「芸術精進と家庭生活との板挟みとなるような月日も多くなり」、さらに実家の破産が智恵子の心を傷めつけた。やがて精神に変調を来す。姪の春子に看病されながら、狂気の中で、智恵子は芸術的な紙絵を作り続けた。それを光太郎にだけ見せたという。その日、待ち焦がれた光太郎が5か月ぶりに病室を訪れる。差し出されたレモンをかじった智恵子は、一瞬正気に戻ったという。同日永眠。52歳。6、7年に及ぶ闘病生活で作った紙絵は千数百点にのぼる。

参考資料：「智恵子紙絵」「女の首」「詩人の妻」「先駆者たちの肖像」「原色の女」



「青鞆」創刊号表紙

「青鞆」は、日本最初の女性のみによる文芸誌。生田長江と日本女子大の保持研子の勧めによって平塚明子(はるこ・後のらいてう)が明治44年9月に創刊。誌名は、ロンドンで進歩的な女性たちが揃って青い靴下をはいたことに由来する。表紙は智恵子、巻頭を与謝野晶子の「山の動く日来る」で始まる詩「そぞろごと」が飾る。そして、らいてうの「原始女性は実に太陽であった...今、女性は月である」で始まる創刊の辞は、当時の多くの女性たちの心をとらえ、「新しい女」と呼ばれた。大正4年に伊藤野枝が編集を任されるようになると女性を巡る様々な社会問題を論争した。大正5年野枝が大杉栄のもとに走り、廃刊。通巻52号発行された。

参考資料：「青鞆と女人芸術」「岩波女性学辞典」



にゅーすBOX

東京都 性感染症サイト開設

都内の梅毒の患者数増加を受けて、東京都は、性感染症の症状や感染経路などをまとめた情報サイト「東京都性感染症ナビ」を開設した。男性では30代、女性では20代の感染者が増加している。サイトには梅毒のほかにも性器クラミジア感染症や淋菌感染症、性器カンジダ症、A型・B型肝炎等についても症状などを掲載し、基礎知識や予防法をクイズ形式などで学べるようにしている。

厚労省 66歳以上も働ける制度調査

厚生労働省が、6月1日時点の高齢者の雇用状況の調査結果を公表した(従業員31人以上の企業対象)。66歳以上も働ける制度がある企業の割合は27.6%。希望者全員が働ける制度に限ると10.6%だった。規模別では、中小企業の28.2%が制度を導入しており、大企業の21.8%を上回った。

LINEで児童虐待相談 来年度から

東京都は児童虐待防止のため「東京 親と子の相談ほっとLINE」で、都内に住む子どもや保護者からの相談を12月14日までの期間限定で受け付けた。SNSの利用で若者が相談しやすい環境を作るのが狙い。全国初の取組みで、検証を経て来年度から本格実施する方針。昨年度都内の児童相談所が対応した虐待は1万4千件。

重大いじめ 過去最多

文部科学省の問題行動・不登校調査によると、全国の小中高校などが平成29年度に認知したいじめが、41万4千378件(前年度比28.2%増)で過去最多となった。いじめ防止対策推進法に基づき、生命や心身、財産に重大な被害が生じた疑いがあったりなどの「重大事態」と認定された件数も474件で過去最多。

派遣社員の4割 正社員希望

厚生労働省の実態調査(平成29年度)で、派遣社員の4割が「今後は正社員で働きたい」と考えていることが分かった。一方、派遣社員が働く事業所のうち、「派遣社員を正社員に採用する制度がある」のは24.4%で、派遣社員が正社員に採用されにくい実態も浮き彫りになった。

練馬区 来年度に「世界都市農業サミット」開催

練馬区の都市農業振興・都市農地保全の取組「農の活きるまちねりま」が、公益財団法人都市緑化機構が主催する第38回緑の都市賞において国土交通大臣賞を受賞した。また、2019年11月29日(金)~12月1日(日)に、市民生活と農業が融合する都市の魅力と可能性を国内外に発信するため「世界都市農業サミット」を練馬区で開催する。

*空調工事のため平成31年1月21日~3月中旬まで閉室します

出産後も就業7割超

11月30日発表の労働力調査によると、女性の就業者数が3千万人の大台に迫っている。増加を支えるのは45歳以降で、45~54歳で前月比9万人増。65歳以上で同3万人増加。

また、「21世紀成年者縦断調査」では、出産した後も働く女性が平成29年時点で73.7%となった。厚生労働省は「育児休業制度の整備や社会の意識変化が進んだことが要因」と分析している。

共働き世帯 6割超

「子供と家庭」をテーマにした東京都の調査(平成29年度)によると、子育て世帯のうち共働き世帯が初めて6割を超えた(61.5%)。子育て世帯の年収は600万~800万円未満が最も多く、共働き世帯では1000万円以上が28.5%だった。子育てをしていく上で、整備してほしいものを問う質問では、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」を選んだ父母の割合が上昇。平日に子どもと一緒に過ごす時間は、1日当たりの実労働時間が10時間以上の父親のうち、59.4%が1時間未満だった。都は、男性の家事と育児を応援するウェブサイト「パパズ・スタイル」を開設した。

市区議会の女性議員数上昇

日本経済新聞が今年9月に行った調査によると、市区議会の女性議員数は、平均3.5人。全議員に占める比率は14.4%で、国会議員の13.7%を少し上回る。この比率は5年前に比べて1.7ポイント上昇しており、緩やかながら存在感を増している。女性比率が30%以上の議会も40市区あるが、三大都市圏に集中している。

国家公務員課長級女性 4.9%

女性国家公務員の登用状況は、本省の課長・室長クラス的女性比率が4.9%(7月時点)で、平成17年の調査開始以来過去最高となった。政府が2012年度末の目標として掲げているのは7%。

性暴力被害救済にノーベル平和賞

平成30年のノーベル平和賞は、性的暴力の被害者救済に取り組んできたコンゴ民主共和国のデニ・ムクウェゲ医師と、イスラム過激派組織「イスラム国」から性暴力を受け、被害の実態を告発したイラクの人権活動家ナディア・ムラドさんの2人に授与された。

